## 館長座談

# 博物館での「しごと」・「あそび」琵琶湖博物館は「ずるい」？

2007年12月21日(金)　琵琶湖博物館館長室にて
司会進行／小川　雅広

### それぞれの仕事

**司会**　琵琶湖博物館とさまざまに関係する4名と館長とで、座談をしたいと思います。まず自己紹介から…。

**水野**　魚を市民参加型で調査し、あわせて保全手法を考えている特別研究員です。世界自然保護基金（WWF）ジャパンの職員でもあります。

**北村**　来館者とワークショップなどをして、博物館をみんなで楽しもうという、「はしかけ」活動をしています。自らも楽しんで展示室をフル活用しています。京都橘大学の大学院生でもあります。

**本田**　来館者の方との交流を仕事にしている展示交流員です。来られた方からお話を聞かせてもらったり、こちらの持っている情報を伝えながら、どうしたら皆さんをフィールドへ誘えるかと、毎日試行錯誤しています。

**右川**　水族飼育員です。水族館の飼育員になるのが、子どものときからの夢でした。生きた資料を扱っていますから、日々新鮮なものが飛び込んできます。潜水して水槽を掃除するなどきつい仕事もありますが、魚と一緒に泳ぐのは気持ちの良いものです。

### 「ずるい博物館」

**司会**　川那部さんはここを、「ずるい博物館」だといつも言っています。資料収集・研究・展示・交流のすべてが、学芸員だけではなくて、外部の人たちの力を利用して成り立っているという意味のようです。皆さんからみると、どうなのでしょうか。

展示交流員
本田　幸子

心の交流のできる博物館でありたいですね

**水野**　新聞などには博物館所属として載ることが多いのですが、貢献しているというより、むしろ利用している、使っているという思いです。もちろん博物館としての研究にも参加していますし、切磋琢磨していきたいと思いながら、むしろ楽しんでいます。

**司会**　「はしかけ」活動によって博物館は大いに助けられているのですが、その一つの「びわたん」をやっている当人の感想は？

**北村**　交流事業でイベントを計画したり実行したりすることは多いのですが、私も使われているという感じは持ったことがありません。

**川那部**　ほんまですか？　ほめても何も出ませんよ。（笑）

**北村**　私たちのわがままを無理やり聞いてもらっているときも多々あります。学芸員さんの専門知識をうまく利用して、もっと面白くできないかを考えています。いつも丁寧にアドバイスをもらっているので、ときに頼まれても、お互い様だなと思います。利用してやろうというずるい人間が、博物館のまわりにいっぱい集まってきているのではないでしょうか。

**司会**　本田さんと右川さんは、来館者の方々との交流の中から、自分も発展しているようなところがありますか？

**本田**　来館者の方といっそう良い交流をして、フィールドへ誘うという仕事は、自分がいろいろなことを知っていないと、伝わるものがないのです。だから交流員の多くは、いろんなところへ出かけて自己研鑽しています。逆に来館者の方から教えていただくことも多いのです。尋ねられてわからなかったことは、すぐに調べるようにしています。展示交流員としての年月を重ねることも大事で、玄関を入ってこられた時点で、そのお客様のご機嫌が良いか悪いかなど、少しはわかるようになりました。

**川那部**　それもすごい。また、怒って帰る来館者には、どこが不満だったか、その理由をお尋ねしたいものですね。

**右川**　私の場合は、生きものの飼育が主な業務ですが、時間帯を決めて「餌やり」するときに、来館者に説明するのです。これはなかなか受けがいいのです。来館者の方の声を、直接聞ける時間でもあります。その声を学芸員さんに伝えることもできますし、私たち自身の発展にもなります。

琵琶湖博物館館長
川那部　浩哉

良いことの方が多いと感じてもらっているのなら、まさに「共生」の本来の姿でしょう

**川那部**　大切なことですね。来館者にとっても、受け売りとは違う本職による説明はうれしいと思いますよ。しかし、人と話すことが嫌いで、他の生き物と接していることが好きだという人がいても、それはそれでおかしいことはない。

**北村**　たしかに、どこまでが仕事の枠かわかりませんが、自分で限ってしまうとつまらなくなります。

**本田**　好奇心旺盛な展示交流員が多いのかもしれませんが…。

**水野**　観客としてみたら、それはうれしいことです。展示交流員が琵琶湖博物館の、まさに「顔」です。

**川那部**　本人が自主的に勉強しているのだから、これも博物館としては「ずるい」話ですね。うれ

しい限りだけれど、それに甘えてはいけませんね。

**北村**　うちの「はしかけ」グループの場合は、学芸員さんなどから「手伝ってもらってうれしい」とよく言われるのです。「手伝ってあげてなんか、いません」と言っていますが…。自分たちがしたくないことはしない。嫌なことは「嫌」と言う。（笑）

**川那部**　それが大切、いや、きっと必須条件ですね。

**水野**　私たちの研究成果をクローズアップして、もっと表に出すのはどうですか？「ずるい博物館」だったらむしろ出すべきで、展示にも反映させるのが良いと思いますね。もっともっと、私たちを使えば良い。

**川那部**　それは、博物館にとっても願ったりかなったりです。

**司会**　お互いに利用しようということですね。共生関係にあるのでは、と思えるのですが…。

**川那部**　うれしい話ですね。「共生」と言うと、両方ともいいことばかりだと思われるかもしれませんが、生き物どうしの間でも、そんなことはありません。個々のところでは利害が対立するのが当たり前なのです。全体として見て、良いことのほうが多いと感じてもらっているのなら、まさに「共生」の本来の姿でしょう。

最先端の研究がわかりやすく紹介されているのが夢の琵琶湖博物館です

特別研究員　水野　敏明

## 今後の博物館のありかた

**司会**　琵琶湖博物館にさまざまに関係して来られて、今後はどのようにかかわって行きたいか、あるいはどんな博物館になってほしいか、話してくださいませんか。

**水野**　いつまでも標本や資料を収集・保管して、調べたいと思ったとき、ここに来ればすぐ利用できる、よりどころであってほしいと思います。100年後でも、200年後でも。（笑）

**北村**　博物館と私たちとの関係って、微妙な均衡の上に成り立っていると思うのです。このバランスが崩れたら、「やらされている」「勝手にやっている」になってしまって、全部が崩れてしまうのではないかなと思います。正直に言って、最初は「お手伝い」の部分が多かった。そのうち、「あれがしたい」「これは変えたほうが良い」となって、「では変えれば」と言われ、そのうち「全部やって」と言われたのです。そこでこっちも「よし」ということになって。（笑）

**本田**　モノを楽しく見せる博物館も大切ですが、琵琶湖のまわりに関心を持っていただくことが、いっそう重要だと思うのです。いわば、心の交流のできる、心を通わせられる博物館でありたいですね。

**右川**　生命のあるものがたくさんいる博物館です。これを維持していくのは確かにたいへんなのですが、できる限りそれを維持していくのが、われわれの務めだと思っています。だから、「ずるい雇われ人」になっていこうかな、と。以前に川那部さんから、「博物館はほんの入口で、本物は野外にある」との意見を聞きましたが、周りからいろいろ入ってくるのは、「ずるい博物館」だからではないでしょうか。

**川那部**　「ずるい」に賛成してもらい過ぎのようだから、今からは無理にでも正反対のことを言いましょうか。（笑）それはともかく、水野さんのお話は、正当な博物館の本質を突いていますね。「展示や交流はもとより、研究も情報もすべては〈資料〉を基礎にして存在する」と、先日ヨーロッパの博物館会議でも、改めて確認されました。

博物館と私たちの関係は微妙な均衡の上に成り立っていると思います

はしかけ　北村　美香

**水野**　最先端の研究がなされて、しかもその内容がわかりやすく紹介されているというのが、夢の琵琶湖博物館です。しかし先端的な内容というのは、濃すぎて誰にもすぐわかってもらえるものではない。でも、そこにある面白い楽しいポイントは、はっきり見せつけてほしいと思います。

**川那部**　難しいことだけれど、それが本質でしょうね。さらにいえば、そこから「一般」の人々が、自発的に行動し始めることになれば…。

**北村**　私たちの活動にもっと興味を持つ人が、内外ともにうんと増えて欲しいです。そして、「もっとみんなで何かしましょうよ」って、言うようになりたい。その可能性はこれから、どんどん広がる気がしています。

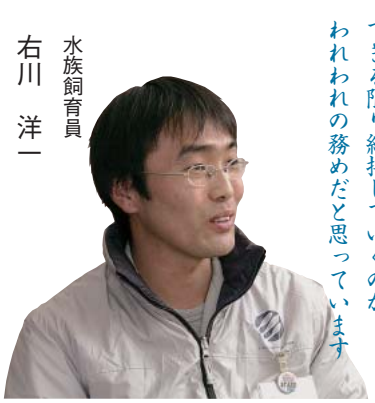
**本田**　こんなに素晴らしい博物館なのに、あるのを知らない方がまだまだたくさんいます。宣伝をもっともっとしてほしい、いや、したいと思います。もったいない気がしますから。

**右川**　すべての方が館内を回るのに、さらに動きやすくしたいと思います。また場所によっては、すっと通過されるところがあります。せっかく来られているのですから、そのようなところには、特に目を引くような展示が必要だと思うのです。

**水野**　解説が、英語や中国語や韓国語などでもほしいですね。イヤホーンはあるけれど、借りるのはやはり手間がいりますから。

　それに冬場の博物館は、もったいないぐらい人が少なくて、静かで実に楽しいです。あまり増えるのも考えものですが、この時期のすばらしさを宣伝することも、ある程度必要ではないでしょうか。冬は入館料を無料にするのも、良いかもしれませんね。

**川那部**　ほんとうに有難うございました。少しほめられすぎた感じもあるけれども…。（笑）これからも、どしどし意見を言ってください、いや、どんどんやってくださると、たいへんうれしいことです。琵琶湖博物館らしい博物館を、ずっと進めていくために、今後ともどうぞよろしくお願いします。



生命あるものをできる限り維持していくのが、われわれの務めだと思っています

水族飼育員　右川　洋一